西王母
經籍
巴

九

特別
チ12
3643
12(9)

西王母

京都図書館

作り物出テ口明

有難や三皇五帝の昔より今此

君の代に至る迄かゝる聖主のた

めしなし　其聖徳ハ日にそへて

も御民ハ海乃ほかまでもゆたに

廣きめぐミを　天が下　地お

みちて　萬民乃興ハ數ならぬ

中ヨリ

門 チ 12
號 3499
巻 9

故梅若誠太郎氏
昭和四年十二月廿一日
梅若重戸氏
寄贈

真ノモイ離メ次
ナシ
御誠ニモ

万天より回る星のごとくや百官卿相雲
客や千戸万戸のすゝをおしおこ
とよそらへ西方の門に照らし出でさがらく
布せり金銀珠玉みてまへ羅綾錦繍
のつやくとして日夜の勝ふかしおう
たわられとめい花見城を望み
もぢめしく 桃李物いはず

たれつゞら市河なし貴賤まじりの陰
さこそことり 面白や四季折々の時をえて
茶ま国土のゆく情景きぬの花
乃名香 妙なる法の心ぞありける
時や至りきし三千年よ後の花心ぞ
折ぞあるとき志乃かざしてのるやいだや
君よりぞしいざいく君にさゝげを

上ゝ
まへ扇ぎのぞみそれぞれに心はありがたく
隙ゆく駒の法の道千里の外もまぢかく
うつし給ふ道に至りて明らけき霊
山会場の法のかずかず廣き誓ひの真
あまねきも尊しいざや
世の翫び奏聞申さんと
つゝに奏聞申すべきか
奏聞といひながら
のぞ

是は三千年に花咲実なる桃花なるが
まれが今此代に至りて花さく事
ひとへに此君の御威徳なればあふぎて
かざしまゐらせ ワキ上 そも三千年に
花咲くらんは撰ひ是はおよびなき其の
西王母の其の桃の中にても
こゝに今は物うくて ワキ されば其

きぞ咲きける花乃　桃李物
いはん言つくすも年月を送る
むすひし此春ハ三ちとせになれ
てふ桃乃ことしようく花さく花に
あふ事も但是君乃よもの恵ミあつ
き国土のちよの種桃花乃色ぞそふ
なる　梅ハ不思議や久方の天常し

せうまのあまり姿とみるぞうまれる
類ひみせ心をもさこそ露乃まにやどれ
う袖乃月のかげ雲ゐよそへまぎるその
めぐるゞあゆきよはひをかさぬ
うけろぬ袖ハ世乃中に人ある心乃花をかさね
君ハ太上天楽こゝに門悦ぞまみとこ遊
むかし華ハふまさど限をあこご衛なる額も

隔なく誠ハ我にそ西王母乃くる身よ
先帰りて花乃宮をもあらはさむと
天ふそあかりける天にそ上り給ふ
急竹呂律乃聲どよびくちへとを動し
て音楽のひまもなきわきて天津風雲
乃通路きよく面白やかく
新てしせむ里るみの来臨なましい数を

乃孔雀鳳凰迦陵頻伽飛めくりてゐ
聲に諧まよや袖の羽風天津乙女の衣
なしあまれこゆそあそらむいろく
けりぞおゆく乃中にぞくふみえたるハ
西王母乃こち姿ひりてしうそかやうし
ぐりりまむれけ袂をちやくし深家
まつさーにきざくまちしちいの冠ず

きせよくまゐるやうにほへる桃をさゝげ侍女よ

このよしかるしかつらし君がゆくすゑ

桃實の花の花をりもてまゐるを

青陽の

咲えしも花やさきつよめぐる手まり

わかきたる曲水のこゝろやすかれ

まりたいまもきまゐるたをやめ猫

たもんそもたまきまつれし雲の

花鳥風月和し雲路よりつき

王母を伴ひひらきよせ王母を待は

よろづや天地のゆるぎもしつりぞお

四こゝろ

道明寺　（作り物出テ）

シテツレ 善（ヨキ）かりけるところ成きるや　仏法寺

ちる修（シリ）机根去ハ相模国住侶（タシロ）と申

尊よう者也申去候我善光

寺如来よ一七日（ツメ）籠り参籠（サンロウ）申てしへばあら

たよ御霊夢を蒙りて候ほどよ思ひ

河内国土師寺（ハジデラ）へまいらばやと思ひの捨て

真ノセイ

ちやうかりける世中ぞかしまことに
こひ入旅衣ゆふすの山路はるばると
指行方ハ白雲の海もみえたる一山雲
ふ宿の夕日がくれの霧間より流れましもこ
きやう河内高砂の尾上をいつさに
たゞくも長月れむを猶かの坊をもつて
きえてゆくや紅葉の落葉の星ありちを

シクリ込手切上略
シク

これ鐘の音ころや松風にそへて聲
露 世 生きよなたとへば山里の秋を
ちり寺の仏法は佛中将也と百種やまず
生死極楽ともきれどもわざさら擬あらけ
其名も天満神の宮ぢかく初めてこそ
姫所ハ但馬づへてたゞもここに心ちをつかひ
らかなりハ頼まじやかざすや舞そても

こゝろよく　神かりの松ハ千とせのよ
代々鉄く霜をかさねて下草ハ
世のためとなりなむつかふ神よりそ
まつれる宮路そのまゝ播磨国のかさ盤
ひろ首かわらぬくいさは是成宮人を
申べき事の　此方乃よみのさう
行うへしぞ　是ハ善きなる乃

叢乃沢菩提よりもならぬくなとゐも
かしまりてハ寺中の人々よりも申しつ
乃様をとりてかたかし　悪魂成る
を叡に與かされし此菩提乃やうをとみ
老人よりは其語々は其事に寺中の
人々へ言ひのりぬへし　かうはうすがやみ
がらの妻くよくへ寺中の人々へくに御

ひろうゆへ　四僧ハ　巻ヲ相換
異ヶ所ニ所ヲ　ぶくうと申ス
てんが　我人ハ仏性ハ　表ヲ
ふうぶ　ふうぶ
又信法ハ善ヲ　七日ニ
義ニ　ハ　ハ　ハ
き　ハ　ハ　ハ
左傳ハ　ハ　ハ　ハ

仏性ヲ　ハ　ハ　ハ
日光　ハ　ハ　ハ
可ル　ハ　ハ　ハ
ハ神ヲ　ハ　ハ　ハ
一切衆生　ハ　ハ　ハ
経ヲ　ハ　ハ　ハ
ハ　ハ　ハ　ハ

どうの枝葉とくべく会釈百万遍やきば
住生願あらまきとの明らく事の先
枝葉ぼうがよ御事起ばこそ
あらず種さいるや社うの遠くこの神
のへくこいまき申くべく光陰今行
きの本穂樹を申ば世界へ
御生えさばやて御法申べく

きに神明をたすけ社祇
をつくしたまへば成人神を
尊あまにして社御
がうの本穂樹の枝葉に
火有難や神仏同種とは
ぞ天神の玄門結縁今ためし
て愛の重門作やまつ

かましめ天神乃ほ絶一社にし御値
遇天神と申に其御本地救世観音
みやまに海さぞや にく是い
抑あめと音在霊山の名法花 今在
西方弘行ぞ 娑婆示現観世音
三世利益同一体 こと外神や都と
けらは 是水波乃隔みえまずに

一如ちあ寺代のみのあまかる霊
殿ぬ神の宮るぞ存つさこ。すうて
有かし空神力も佛経もせめ和
光乃おにあ行むぞ在りとの色
きみくし友紀の世の神乃度
丑て代時代よ色るに神もれ母よ産
給ふ皆く西都よまつり行よ二月

下旬五日の夕暮に都を出て西坂つゞき
[illegible]の墨染桜宿あり[illegible]ば柳の下に神
[illegible]とゝ[illegible]ぬ[illegible]ば[illegible]値遇の[illegible]結縁とた
[illegible]ゆゝ[illegible]角[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]の[illegible]露[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]宿[illegible]
[illegible]

[illegible]ハ都府樓の[illegible]

[illegible]
[illegible]天門鄙[illegible]
[illegible]ハ都[illegible]樓[illegible]観音寺
[illegible]鐘の[illegible]柳くハ[illegible]ハ都の
[illegible]秋[illegible]の時[illegible]
[illegible]二四日[illegible]八百千行

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中りしぐれ
秋の白玉神の
大玉入神とや
きりや霜ぐも
つあれ月
きりや
上旬
上
月三日
月三日
琴和琴笛作

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]て、彼山[illegible]を仙[illegible]人[illegible]
[illegible]諸法[illegible]
[illegible]者を集めい[illegible]樹の陰
[illegible]
他[illegible]の縁[illegible]
[illegible]めぐ[illegible]
[illegible]宮中[illegible]

[illegible]経[illegible]
[illegible]者[illegible]
[illegible]
[illegible]向[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

智信しの五常を[illegible]

風月詩歌管絃を専とし[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雨乃[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]上にて[illegible]
[illegible]の鳳輦[illegible]
雲[illegible]がきの[illegible]風[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]呂の赤ぐつの聲
[illegible]拜[illegible]
[illegible]
[illegible]夜[illegible]山[illegible]
[illegible]夜遊やたつ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]深夜の[illegible]
羅刹[illegible]
[illegible]火[illegible]
[illegible]
[illegible]

籠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲の波うつもとの松原の里のなごり
煙にぞ哀れうつる里男子は哀にきもしく
ニテ茅
ふる茅の屋の生男子
月日うつる花落葉無常の常住
不成の栄や色ぶかうしぶ
ぶし中首の眼よ意ど人間もうえもの
の親入云て打以笠りぬ
ぶ

人間有内の縛変ハぞ
中頭ハて 間浮世ハ序る志執のウく
哀ハこ入海ハ
ぜまぐ夢のうまる
ハ行ハ宮ハ
哀ハ海ハ
入ハ極ハ

梅と申す事なり
歌の心は
梅の花の
てそ
名木狩人事は
ぶるうたは異なり
うくつるまる名付ける吳服
も妻は如何
五年家十萬金持乃塩手
源太景季と
一枝折
やまりて
高名人
山花を
景時同じ
梅花有を
見立
景季同じ
神木
古歌の

ゑびらの梅ごの中あつし　ロキ　うるやる將の
古ゑとつひ石ずと云ぐ名ぶ所ぶ
ちぐ〻ふ　ミテ月　梅ちの花ちの中に雨入ぶる
きかうあ名ぶ　ロキ　其景季ゑ
さうとゆ　ミテ十　名ずの入ぶちのちまう
早　藤ゑ梅入　ミテ　上三月　名ぶ
ずつい花のうば　ちゑ入ぶ　求入ぶ

きく畠ぶ　身ぶ　捨てうてぶ
ひすぶ　うぶきぶ　梅入ぶ　ぶ心の花
ひくゆゑ筆ゑ　名ぶてたくあれやく　返シヤナシ
早リツヨノ　去年よ年家ゑ去年播ぶ　ゑ室山
中入水ゑ二十度の合戦ぶうちて
山陽道　南海ぶ　名て十四ぶ國の侍ぶ
入ぶ部入合十萬入　詩津入　ぶ　ぶの名よぶ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ほどよ味方の城、六萬人寄せ二手に
分て範頼義経の海道からめて宮海
山なく須広宮とかこんとく
行ける鵯鶴曙こしかくぐろ
月
宮の山松よりまさりの八幡宮
の社に祈願をたて海おづる
宮湖を作るうのまを見た

浦より海へ海くの
源氏の船数しらずていさとたく火も
かがやかせ須広の浦
野みの山もこうぶ宮船かぶ
海士の船をうかべ
人の梅宮紀伊
宿とり泊
扶桑中堂白雪の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雷火もすれ　悪鬼もすれ　天地をゆ
[illegible]　海もあり
[illegible]　震動
[illegible]　紅煙乃顔
[illegible]　焔浮よりかえる月の
[illegible]　山星海下を
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

巴

ゆきがたの弟もうしの武勇誉の
接よ出よ日本勇士の山家ゑり
出ゝ僧うゝ我いまゝ部とゝ
祖父武士思ふ武士まゝ接夜
武勇乃巴城と富士ゝ思ゝ音
三代尾張宮ゝ宿ゝ蓋ゝ

行く日をそくるゝ行くに行くに
や場の海といふ所
江の川 霊津の風やしよ見ていぬ
面白や

お舎人
三郎ヲ

と下を見
ず

所の神ふしまり
ご思召 二人の
神ふしまり
ちふ人
をたうう
土居の
給へ

亜天もしまりの
恵儀やおこらるる
行きもこ
便ハこの事
事と
富中て
行数と

作八幡宮に参詣し奇特いと
多く行ひ給ふ中にも殊に
きびしき滝にぞ打たれ給ふ
しばらくうべ神と崇ぶ
ものとぞ思ひ
給ふ衣の裾
より都男山
に登り給ふ
登り給ふ
ぬ
屋
の
ち
住
屋
の
の
ま
ま
ま

社参の使者ぶ[illegible]義仲入道蓮
[illegible]給へ[illegible]
猿べよ　[illegible]
[illegible]
[illegible]

中入

本紙

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あづかり給ふ顔乃方飛あまし心のか
武者あ面もとりするとかるよりも
ぎくかましてじこいひくるもしけること
しりて一軍ハやと色をこしもい
そこ能かこるこ地長
東こ[illegible]めさこしなるれて
かこれかこ[illegible]ちこ色をしば長り

えあくおらこ[illegible]めくて西方をすこふ
ば方こ[illegible]あこるをすけ[illegible]
岡こあつこ[illegible]ら脇吸地を[illegible]
で我ちきこ[illegible]皆一方に切こて
ぬこ[illegible]こ[illegible]
遠こ[illegible]こ[illegible]
あらわ立ゆ[illegible]武君こ[illegible]

たりやすらや御自宮ひとびとの松の
梢よりなほ山松のほずえより御小袖
ぎぬ御守りとて白き色なるく給
はりたる御髪の御髪はらはらとこぼれ
まゐらせたる君の御おとしきと
つ見へごとくなる御姿をかりの
しるしに要津乃御よりの長御

御心地をこぶ御さちなる
同じくにはなりぬ御小神
うづまきたる御ぞ御ぶ
太刀衣うちかけ給ふ家ぞ
まゐる君の姿を丈夫のさま
成とこそへさぶらひ落ぬ
うしろめたさの御心をひとたび